

まちづくり市民ワークショップ しまだ未来カフェ開催報告



- 1 主催 島田市地域生活部協働推進課、地域づくり課
- 2 運営協力 NPOシマシマ
相模女子大学マッチングプロジェクト
- 3 開催目的 これからの島田市のまちづくりについて、多様な社会層、年齢層、まちづくりに関する意識の異なる層の市民が意見交換を行うことで、まちづくりを「自分ごと」として捉え、互いに意識啓発の相乗効果をもたらし、市民のまちづくりに対する意識啓発を図ることを目的とする。
- 4 開催日時 平成30年7月1日（日曜日）13:30～16:30
- 5 開催場所 島田市民総合施設プラザおおるり 大会議室
- 6 対象者 住民基本台帳から無作為で選ばれた高校生から74歳まで（昭和18年4月2日から平成15年4月1日まで生まれ）の市民3000人
- 7 申込者・参加者数
参加申込者数 34人（申込率1.13% 34人／3,000人）
当日参加者数 21人（参加率0.70% 21人／3,000人）
当日の出席率 61.7%（21人／34人）

8 参加者の内訳

(1) 年代・性別

区分	男性	女性	合計	率
10代	0人	2人	2人	9.5%
20代	1人	0人	1人	4.8%
30代	1人	4人	5人	23.8%
40代	3人	1人	4人	19.0%
50代	1人	1人	2人	9.5%
60代	2人	3人	5人	23.8%
70代	1人	1人	2人	9.5%
合計	9人	12人	21人	100%
率	42.9%	57.1%	100%	

(2) 地区別

	参加者	申込者
旧市内・大津地区	10人	14人
六合地区	6人	7人
初倉地区	3人	7人
大長・伊久身地区	1人	1人
金谷地区	1人	5人
合計	21人	34人

(3) 運営補助者

相模女子大学マッチングプロジェクト 講師1人、学生10人
NPOシマシマ 5人（ファシリテーター、補助ファシリテーター）

9 ワークショップの概要

(1) テーマ「子育てしやすい街ってどんなまち？」

普段まちづくりに携わる機会の少ない女性や、次代を担う若者も含めた多くの市民にまちづくりに関心を持ってもらうため、女性や若い世代にも馴染みのある「子育て」をテーマとして設定した。

(2) ワークショップの進行

開会あいさつ・講師紹介	(13:30～13:40)
アンケート結果の報告	(13:40～13:55)
グループワーク	(13:55～途中休憩10分間～15:45)
提案発表・講師の講評	(15:45～16:20)
事務局からの連絡	(16:20～16:25)
閉会あいさつ	(16:25～16:30)

(3) 運営体制

参加者を7グループに振り分け、グループワークの進行を補助するため相模女子大学マッチングプロジェクト※¹の学生が各グループに1、2人ずつ加わった。

グループワークの進行は、NPOシマシマ※²に依頼した。メインファシリテーター2人が進行役を務め、3人の補助ファシリテーターが各グループを回って意見交換をサポートした。

提案発表に対する講評は、相模女子大学エグゼクティブアドバイザー松下啓一氏が担当した。

※1 相模女子大学の学生グループ。相模原市南区役所と協働で地域と学生をマッチングさせる学内イベントを手がけている。

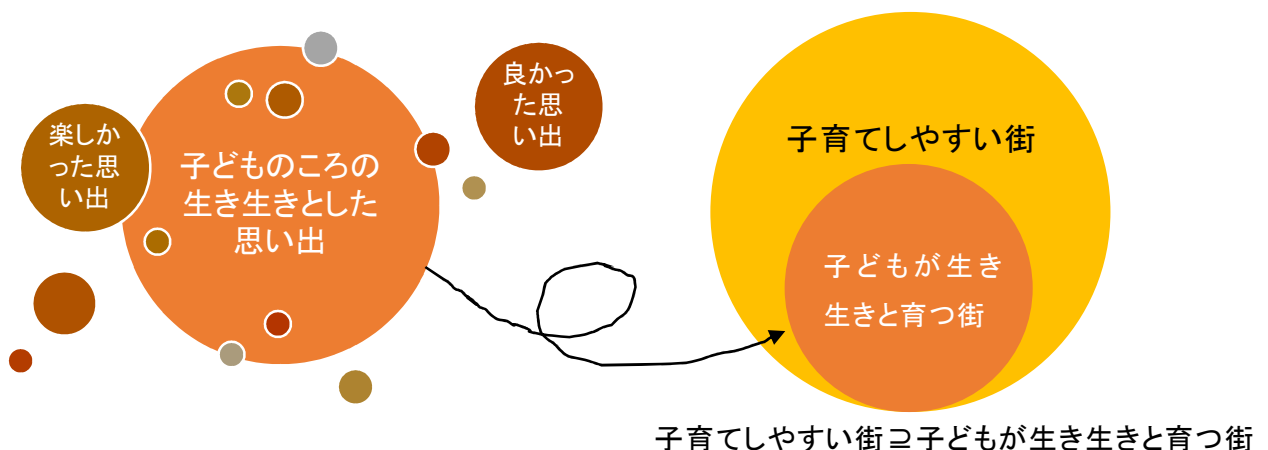
※2 平成29年度に市主催の「楽しい会議による楽しいまちづくり研修」(ファシリテーター養成研修)を受講した市民6人で立ち上げた市民活動グループ



進行担当のNPOシマシマのみなさん

(4) グループワークの進行

参加者が10代から70代まで幅広いため、子育て経験の有無によらず、全員が意見交換に参加しやすいよう、子どものころの楽しかった思い出を掘り起こすことから作業を始めた。「子育てしやすい街」について保護者だけの視点で考えるのではなく、子どもを中心に「子どもが生き生き育つ街」にするにはどんなことをしたらいいと思うか意見交換を行った。



(i) 子どものころの楽しかった思い出の掘り起こし

個人で付箋紙に思い出を書き出し、1枚ずつ発表しながら模造紙に貼り、グループで意見を共有する作業を行った。

(ii) 思い出がなぜ心に残っているのかについて意見交換

なぜ思い出に残っているのか、何が良かったのかをグループ内で意見交換し、付け足しの意見を付箋紙に書き、模造紙に貼り出した。



(iii) 思い出のグループ化

似たような思い出をグループ化し、それぞれにタイトルを付けた。

(iv) 子育てしやすい街について意見交換

グループ化された思い出を基に「子どもが生き生きと育つ街」について意見交換を行った。



(v) 提案内容の検討、発表用紙の作成

「子どもが生き生きと育つ街」の実現に向けて、自分たちならどんなことをするか3つの提案をまとめ、発表用紙に記入した。

(4) 提案内容

グループ名：SHIMADA Girls

1. みかん通り→あいさつする→スタンプGET!→3つためるとみかん3個
2. やまめつかみどり大会→1位になったらやまめ食べ放題
3. 目指せ!お祭り博士!!お祭りにたくさん参加すると博士になれる!!

グループ名：Best Friend

1. 遊びを教える機会
2. 友達と仲良く遊べる場所
3. 体験旅行



SHIMADA Girls



Best Friend

グループ名：ばかうけ

1. 茶つき体験を通じた全国小学校との交流！色々な友達つくっちゃえ
2. 島田市のファミリー化計画！家族ぐるみの関係性を強めるイベント
3. 自然と文化の継承！島田にもいっぱいあるよ！！！！

グループ名：D

1. 子ども達だけで安心して遊べる施設
2. 大自然の中で1日満喫できる体験
3. 大人が介入しないで子ども達だけで遊べる仕組みづくり



ばかうけ



D

グループ名：チーム松下

1. 大人も子どもも時間と金銭に余裕のある生活
2. 子どもが安心して遊べる場所の提供
3. 県外の学校との交流

グループ名：なんとと言ってもただが好き！

1. 出来ないオトナにボク、ワタシがただで得意技を伝授
2. 月に1度、よそのお宅で夕食をただで食べるプロジェクト
3. よその子を1人以上自分の家族にするなんちゃって住民票（タダ）



チーム松下



なんとと言ってもただが好き！

グループ名：なかや街

1. だれでも参加できるお祭り
2. 名観光地を巡るはとバス
3. 自由参加型の全12種目の運動会



なかや街

(5) 講評（松下啓一氏）

人口減少、税収減、社会保障費の増大などが分かっている中、思い切った転換をしないとイケない。市民や市役所の意識を転換するための具体的な仕組みを考えなくてはイケない。身近な問題を自ら考える機会を作っていくことが大切。今回のワークショップは、行政も市民も変わっていく第一歩になったのでは。今回の無作為抽出の取組みなど知恵を出して前向きに取り組んでいくべき。



10 提案内容の取扱い及び参加者へのアフターフォロー

提案内容は、市役所内で情報共有し、今後の子育て支援施策や市民と市との協働に関する施策の企画・立案の参考に活用する。

今後、市が審議会等の委員や市民参加型のワークショップ等の参加者を公募する際に、しまだ未来カフェの参加者に情報を提供する仕組みを設けるなど、参加者がまちづくりに関心を持ち続けるような取組を検討していく。